

森嶋、僧侶になるってよ

～元サラリーマン、僧侶への道～その4



南無阿彌陀仏(なまあみだぶつ)。略して「なんまんだー」とか「なまんだぶ」と言ったりもしますが、これはお念仏といい、阿彌陀如来を文字であらわした「名号(みょうごう)」です。世間一般によく知られている言葉で、お葬式の場面で耳にする機会が多いせいか、「縁起が悪い」とか「死を連想する」というイメージの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。だとするとちょっと悲しいですね。“南無”とは「おまかせします」という意味があります。インドの言葉「ナモ」を音写したもので、尊敬や帰依を意味します。帰依は“帰命”ともいい、中国の言葉ですが“南無”と同じ意味です。浄土真宗にふれているとよく出てくる言葉です。ですので、「南無阿彌陀仏=阿彌陀様におまかせします」となります。前回ご説明した通り「煩惱だらけで自己中心なわたしをもお救い下さる阿彌陀様」を、信じておまかせする。といった風に味わっていくそうです。朝起きれば「今日も一日を迎えられてありがとうございます。なんまんだぶ。」。食事の時には「今日も美味しいご飯をいただけてありがとうございます。なんまんだぶ。」。辛い日には「どうしよう。苦しいな。なんまんだぶ。」といった感じ。ですので本来はお葬式の時に限らず、あらゆる場面でお念仏いたします。

浄土真宗ではお念仏の回数的大小に関わらず、阿彌陀様の願い(本願)によって浄土へ往生させて頂ける事が決まっています。

そのありがたさに感謝射し、仏様を礼拝する「仏恩報謝(ぶつおんほうしゃ)」という生き方を教わります。往生させて頂くまでの間、自分に何が出来るか、何をしていくか、と問いつつ、どんな場面でも仏恩報謝に行く人生となるでしょう。さらに仏様だけでなく、自分の周りの方々にも感謝射する。その合言葉!?!がお念仏というわけです。

住職がふとおっしゃっていた「宗教というのは生き方だからね」という言葉をいつも思い出します。つまり「どう考えて生きるか」ですので、一人一人が自分に合った選択をされるのが、本来の「宗教」の姿ではないでしょうか。とは言いつつ、僕はたまたま浄土真宗のお寺で働かせてもらう事になり、み教えを聞かせて頂く事ができました。それに、浄土真宗でほんと良かったと思っています。結局のところやはり「ご縁」ですね。

ところで話は変わりますが、いよいよ10月に「得度習礼(とくどしゅらい)」という、僧侶の資格を得る為の合宿修行に行きます。計11日間、京都の桂という地域にある、本願寺の西山別院という場所で行われるそうです。僧侶としての心得を確認する機会であり、座学、お経の実唱、試験等を経て、最後にお髪剃りの儀式をし、晴れて僧侶に。という流れだそうです。携帯電話は持ち込み禁止。外部と一切連絡がとれないとの事で不安ではありますが、よくよく考えれば携帯電話に縛られる事なく過ごせるので、それも良いな〜とも思ったり。この記事を書いたのが9月なので、皆さんに読んで頂いてる頃には無事に僧侶になっているはず!?!どうぞご期待下さい!



寺男の独り言です...

秋分、寒露の季節になり、やっと涼しくなってきました。

何時ものようにLOOK(自転車)で行きつけの自転車屋に向かう途中のワンシーン...盆の入り近づいたある日、交尾中の

のギンヤンマ飛翔との暫しの並走...ギンヤンマを見るのは何年ぶりか!!こんな街中で... (中之島辺り)

先日、いつもの友等と暫くぶりの友との自転車走行会。いつもの友等はヒーヒー喘ぎながらcafe到着...唯、暫くぶりの友は激坂をスイスイと我々を追い越し上って行く!悲しい哉!!...でも、寺男は寺男のスピードで走って行きます!!

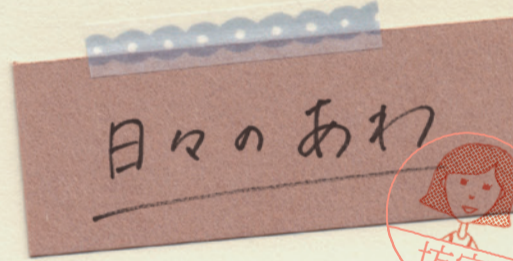
さて、寺男の好きな職人に安藤緑山という牙彫師がいます。つい最近迄、謎の牙彫師と呼ばれていて殆ど何も分からなかったが、2017年に明治工芸の展覧会を開催した時、電車の吊り広告に謎の牙彫師として自分の祖父の作品がのっていたのを家族が見て申し出て、生立ち経歴がつまびらかになる。名前もロクザンと呼ばれていたのが本当はリョクザンと解る。作品には、タケノコ、柿、バナナ、三茄子...超絶技巧の本物と見紛う象牙の彫刻です。彼の作品は京都の清水三年坂美術館で観ることが出来ます。

それから、新しくサロン前に『ペットの墓』が出来ます。上部の阿彌陀さんの廻りに石、苔、エビネ、スズランで須弥山を造りました。

お寺の東側の道路際花壇にチューリップ球根を60個植え込みました。春が楽しみ...



今年も満開 野菊(ヨメナ)



朝起きて着替えたら、お米を洗ってお水に浸け、お寺のくすり

と境内、墓地の掃除。真夏の間はうんと早起きをして、「朝日が昇るまでが勝負! (夜明けと共に猛暑なので)」だったけれど、ここ最近はいくらか寝坊しても平気。とても素敵なあさあけときに、掃除もはかどります。

掃除が終わったら朝ごはん。「みほとけさまいただきます。みなさまいただきます」。食べ終わったら登園準備。歯をみがいて、着替えて、髪を結ぶ。よし、今のところ「よーちえん、いかん。」口撃は封印されているぞ。安堵の色を悟られないように自身の仕度をすませ、本堂の御本尊にお仏飯を供えて「なまあみだぶつ」したら、いざ出発! ここまでくれば「ひと安心」。

今日は休日。子供を幼稚園に送ったら、その足で映画を観に行く予定。上映時間2時間40分、朝イチの回でないとお迎えに間に合わない...。期待と不安の渦巻く朝、というわけなのです。

かくして無事に映画館(5年ぶり!)で「時間を逆行できる回転扉を行き来して世界を救う」作品を観賞。終盤の「起きてしまったことは仕方ない。この世界の理だ。でもそれが何もしないという理由にはならない。」という台詞が心に残りました。たとえば、「スムーズにルーティンこなして、娘をご機嫌さんで園に送り出す」という私の朝のミッションは、逆行しても世界を救ったりはしないけれど、でも私たちにあってはわりと大切なこと。誰もがそんな「わりと大切なこと」のために日々、各々のミッションに挑んでいるのだと思うと、なんだかぐらとくる。時間は戻せないけれど、今を懸命に生きることはより良い未来につながる。かもしれない...などと考えていたら、もうお迎えの時間。さあ、午後のミッションの始まりです。